JBR－02 ラストブラック(黒さび君)
ダイハツ純正品番:DNJBR02000

株式会社 ダイゾーニチモリ事業部
整理番号:10979G-1(D)

作成日:（第1版）　2010年12月24日
改定日:　　]

製品安全データシート

1. 製品及び会社情報

ダイハツ純正品番:DNJBR02000

製品名　：　JBR－02　ラストブラック　（黒さび君）

主　用　途：　錆転換剤

会社情報

会　社　名	：	株式会社 ダイゾー ニチモリ事業部
住　　所	：	茨城県猿島郡五霞町幸主川原639
担当部門	：	生産・技術部　品質保証室
電話番号	：	0280-84-1023
ＦＡＸ番号	：	0280-84-3208

緊急連絡先

担当部門	：	生産・技術部　品質保証室
電話番号	：	0280-84-1023
受付時間	：	月曜日～金曜日(祝祭日を除く)　09:00～17:00

整理番号　：　10979G -1(D)

2. 危険有害性の要約

GHS分類

<物理化学的危険性>	－	－
<健康に対する有害性>	皮膚腐食性・刺激性	区分3
	眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	区分3
<環境に対する有害性>	－	－

＊ GHS分類項目につきまして本書では、分類結果が「分類外」「分類対象外」「分類できない」に該当する項目については、記載を省略しております。

<絵表示又はシンボル>
<注意喚起語>　 　警告

<危険有害性情報>
- 飲み込むと有害のおそれ
- 皮膚刺激
- 眼刺激
- 飲み込んで気道に侵入すると有害

注意書き

<安全対策>
- すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- 使用前に取扱説明書を入手すること。
- この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
- 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
- 容器を密閉しておくこと。
- 保護眼鏡・保護マスク・保護手袋等の保護具を適切に着用すること。
- ミスト、蒸気を吸入しないこと。
- 取扱い後はよく手を洗うこと。
- 環境への放出を避けること。

<救急処置>
- 火災の場合には適切な消火方法をとること。
- 飲み込んだ場合は、吐かせずに直ちに医師の診察を受けること。
- 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- 眼に入った場合は、直ちに清水で15分以上洗眼し、異常がある場合は直ちに医師の診察を受けること。コンタクトレンズを着用していて、容易に外せる場合は外して洗眼すること。
- 皮膚に付着した場合は、直ちに多量の水と石けんで洗うこと。異常がある場合は直ちに医師の診察を受けること。

・作業中に気分が悪くなった場合は、直ちに作業を中止し、速やかに通気の良い所で安静にすること。異常がある場合は直ちに医師の診察を受けること。

<保管方法>
・保管の際は、直射日光の当たる所、40℃以上になる所や錆の発生しやすい水・湿気の多い所、凍結のおそれのある所を避け、保管すること。
・子供の手の届くところに置かないこと。

<廃棄方法>
・内容物や容器を廃棄する際には、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成・成分情報

単一製品・混合物の区別　混合物
学名又は一般名　錆転換剤
成分

	タンニン酸	増粘剤	精製水
含有量(wt%)	0.1 ～ 0.4%	2.5 ～ 5%	85 ～ 95%
化学特性(化学式)	特定できない	特定できない	H_2O
官報公示整理番号(化審法・安衛法)	-	登録済み 既存物質	-
CAS.No.	1401-55-4	非開示	7732-18-5
化学物質管理促進法(PRTR法)	対象外	対象外	対象外
労働安全衛生法	対象外	対象外	対象外
毒劇物取締法	対象外	対象外	対象外

4. 応急措置

吸入した場合:　患者をただちに空気の新鮮な場所に移し、安静、保温に努め、必要に応じて医師の手当てを受ける。呼吸が停止している場合には人工呼吸を行い、呼吸困難な場合には酸素吸入を行う。

皮膚に付着した場合:　汚染した衣服や靴を脱ぎ、触れた部位を多量の水で洗い流す。もし皮膚に炎症を生じた場合は医師の手当てを受ける

眼に入った場合:　ただちに清浄な水で15分以上洗眼した後、医師の手当てを受ける。コンタクトレンズを使用している場合は、固着していない限り、取り除いて洗浄する。洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水が行きわたるように洗浄する。

飲み込んだ場合:　吐かせてはならない。吐き出させるとかえって肺への吸引等の危険が増す。コップ1～2杯の水を飲ませ、速やかに医師の手当てを受けさせる。被災者に意識がない場合には、口から何も与えてはいけない。嘔吐が自然に起きたときは、気道への吸入が起きないように身体を傾斜させる。

最も重要な徴候及び症状に関する簡潔な情報:　予想される急性症状及び遅発性症状
皮膚:乾燥(急性)、脱脂(長期又は反復ばく露)眼:発赤、痛み(急性)

応急措置をする者の保護:　救助者は、状況に応じて適切な保護具を着用する。

医師に対する特別な注意事項:　安静と医学的な経過観察が必要。

5. 火災時の措置

消火剤:　非引火性。ただし周辺火災の場合は一般的な消火方法に準ずる。

使ってはならない消火剤:　現在のところ有用な情報なし。

火災時の特定危険有害性:　消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流失しないよう適切な処置を行う。

特定の消火方法:
1. 火元への燃焼源を断つこと。
2. 周囲の設備等に散水して冷却すること。

3. 危険を伴わず実施できるなら、火災区域から製品を移動すること。
4. 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止すること。

消火を行う者の保護: 消火作業の際は、風上から行い必ず保護具を着用すること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置:
1. 作業者は適切な保護具(「8. 暴露防止及び保護措置」の項を参照)を着用し、眼・皮膚への接触やガスの吸入を避ける。
2. 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。
3. 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
4. 関係者以外の立入りを禁止する。
5. 漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護具を着用する。
6. 低地から離れる。
7. 密閉された場所に入る前に換気する。

環境に対する注意事項:
1. 漏出物が河川、下水道等に排出されないように留意する。
2. 海上の場合、薬剤を用いる場合には国土交通省令で定める技術上の基準に適合したものでなければならない。

除去方法:
1. 周辺の着火源を取り除く。
2. 少量の場合は、おがくず、土砂、ウエス、紙等に吸着させ回収し、その後漏出区域周辺を水で洗い流す。
3. 大量の場合は、漏洩した液は土砂等でその流れを止め、安全な場所に導いた後、ポンプ等で吸い取り、出来るだけ空容器に回収する。

二次災害の防止策:
1. 漏洩時は事故の未然防止及び拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。
2. 付近の熱、炎、スパークなど着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策:
1. 換気の良い場所で使用し、使用後は容器を必ず密栓すること。
2. 皮膚に触れたり、目に入る可能性がある場合は、保護具を着用する。
3. ミストが発生する場合は、呼吸器具等を使用してミストを吸入しない。
4. 40℃以上になるところには保管しないこと。

注意事項:
1. 取り扱いは換気の良い場所で行う。屋外ではできるだけ風上から作業する

安全取扱い注意事項:
1. 使用済みの容器は一定の場所を定めて集積する。
2. 容器を転倒させる、落下させる、衝撃を加える等の粗暴な取扱いをしない。

保管

適切な保管条件: 直射日光を避け、換気の良い場所に保管し、密閉して空気との接触を避ける。40℃以上になるところや、0℃以下の凍結しやすい場所には保管しないこと。

適切な技術的対策: 現在のところ有用な情報なし

注意事項: 金属容器は変色・腐食する可能性があるため、金属容器に移して保管してはならない

安全な容器包装材料: 容器は樹脂製なので、粗暴な扱いをしない。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策:
1. 屋内の作業場の場合、吸排気が充分確保できる設計とすること。
2. 取扱い場所の近くに、眼の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置し、その位置を明確に表示する。

管理濃度: 現在のところ有用な情報なし

許容濃度: 現在のところ有用な情報なし

保護具

呼吸器用の保護具: 必要に応じて送気マスク等を着用する。

手の保護具: 必要に応じて耐水性の手袋を着用する。

目の保護具: 必要に応じてゴーグル等を着用する。

皮膚及び身体の保護具: 必要に応じて保護服、保護長靴、保護前掛け等を着用する。

適切な衛生対策: 濡れた衣服は脱ぎ、完全に洗浄してから再使用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態

形状：	粘稠液体
色：	淡褐色
におい：	特異臭気を有する
pH：	1.95

物理的状態が変化する特定の温度/温度範囲

沸騰範囲：	100～125℃
融点：	データなし
凝固点：	データなし
分解温度：	データなし
引火点：	なし
発火点：	なし

爆発特性

爆発限界：	なし
蒸気圧：	データなし
蒸気密度：	データなし
比重：	1.03～1.05g/㎤

溶解性

溶媒に対する溶解性	
水に対する溶解性：	完溶

その他のデータ

揮発性：	なし

10. 安定性及び反応性

安定性：	通常の条件では安定。 蛋白質・金属・アルデヒドと反応して沈殿物を生じる。
反応性：	現在のところ有用な情報なし
避けるべき条件：	現在のところ有用な情報なし
避けるべき材料：	現在のところ有用な情報なし
危険有害な分解生成物：	現在のところ有用な情報なし
その他：	現在のところ有用な情報なし

11. 有害性情報

急性毒性：	現在のところ有用な情報なし
局所効果：	液と接触すると眼及び皮膚を刺激する。
感作性：	現在のところ有用な情報なし
慢性毒性・長期毒性：	現在のところ有用な情報なし
発がん性：	現在のところ有用な情報なし
変異原性：	現在のところ有用な情報なし
催奇形性：	現在のところ有用な情報なし
生殖毒性：	現在のところ有用な情報なし
その他：	1. 飲み込むと下痢、嘔吐する可能性がある。 2. 眼に入ると炎症を起こす可能性がある。 3. 皮膚に触れると炎症を起こす可能性がある。 4. ミストを吸入すると気分が悪くなることがある。 5. 水と反応して有害なガスを発生する等の情報は現在のところなし。

12. 環境影響情報

移動性：	現在のところ有用な情報なし
残留性生体蓄積性：	現在のところ有用な情報なし
分解性：	現在のところ有用な情報なし
生態毒性：	現在のところ有用な情報なし
魚毒性：	現在のところ有用な情報なし
その他：	BOD：140ppm、COD：510ppm（タンニン酸0.1%水溶液）

13. 廃棄上の注意

1. 事業者は産業廃棄物を都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
2. 水で希釈し、中和して通常の排水処理を行なう。
3. 投棄禁止
4. 埋立処分を行う場合には、あらかじめ焼却設備を用いて焼却し、その燃えがらについては、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令」に定められた基準以下であることを確認しなければならない。

]

14. 輸送上の注意

下記、輸送に関する国内法規制に該当するので、各法の規定に従った容器、積載方法により輸送する。

国内規制:	消防法　非危険物
陸上:	運搬に関しては容器に漏れのないことを確かめ、荷崩れの防止を確実に行う。
海上:	船舶安全法の規定に従う。
航空:	航空法の規定に従う。
国際規制:	IMO／ICAO／IATAの規定に従う。
国連分類:	該当なし
国連番号:	該当なし
追加の規制	特になし

15. 適用法令

廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物規則 (拡散、流出の禁止)　産業廃棄物, 廃酸

16. その他の情報

引用文献

1. 15308の化学商品(化学工業日報社)
2. 急性中毒処置の手引き (薬業事業社)
3. 許容濃度等の勧告 (2005年度) 日本産業衛生学会 産業衛生学会誌
4. 製品安全データシートの作成指針 (改訂版)(日本化学工業協会)
5. GHS分類結果データベース (独立行政法人 製品評価技術基盤機構ホームページ)
6. 中央労働災害防止協会 (安全衛生情報センター ホームページ)
7. 危険物船舶輸送および貯蔵規則(13訂版・国土交通省海事局検査測度課)

記載内容の取扱い

記載内容は現時点で入手できる資料、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることが有ります。含有量、物理化学的性質等の数値は保証値では有りません。注意事項は通常の取り扱いを対象としたものであって、特殊な取り扱いの場合は、用途、用法に適した安全対策を実施のご配慮をお願いいたします。

また、記載内容は情報提供であって保証するものではありませんので重要な決定をされる場合は、出典を良く検討されるか、試験によって確かめられることをお薦めいたします。